

## 授業で使える当館所蔵地図

No.33

『20万分の1地勢図 名古屋』

作成年：1923（大正12）年

サイズ：46×78cm

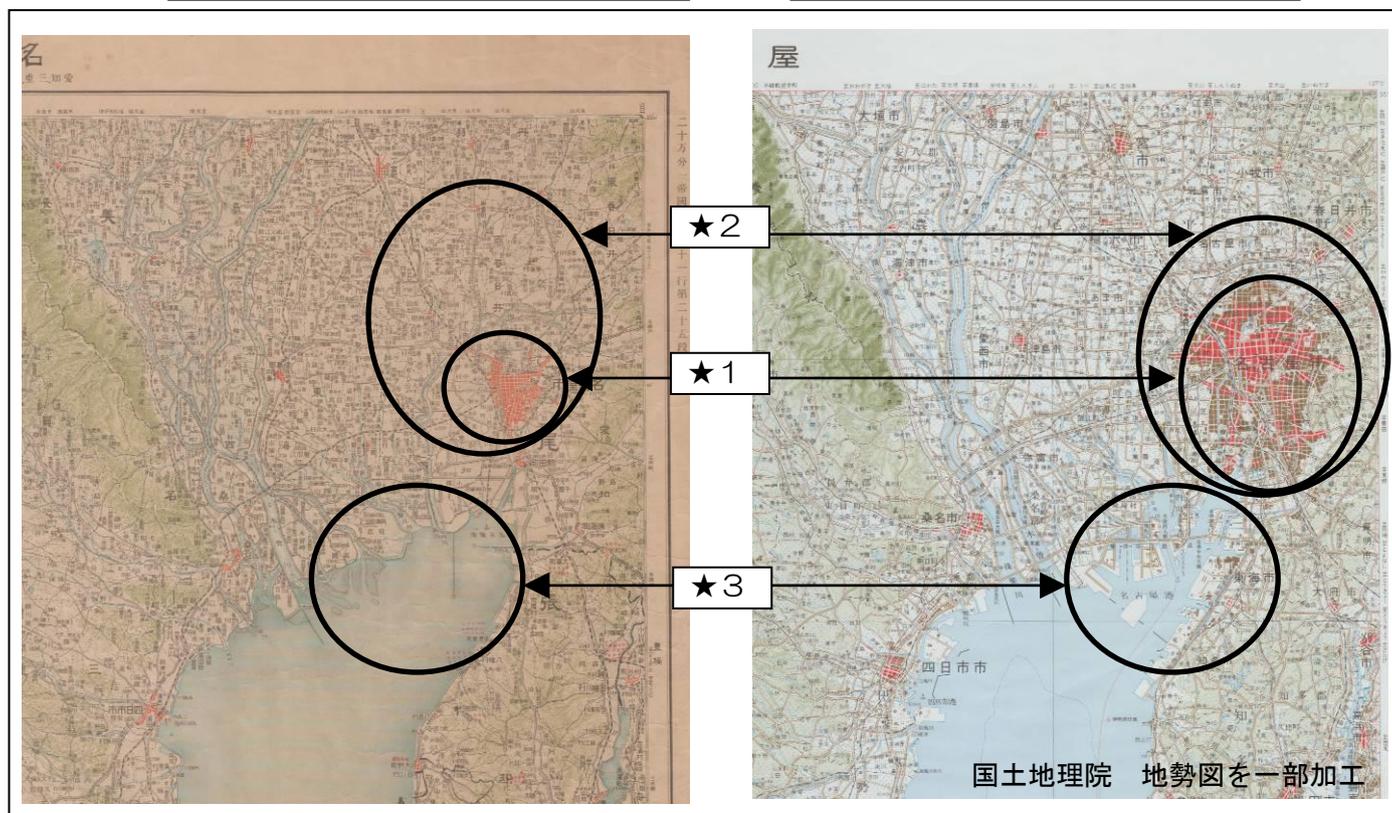
作者：大日本帝国陸地測量部

『20万分の1地勢図 名古屋』

作成年：2012（平成24）年

サイズ：46×78cm

作者：国土地理院



\*この地図は、国土地理院の承認を得て、同院発行の20万分1地勢図を複製したものである。

(承認番号 平28情複、第1205号)

### 【解説】

地勢図は、都道府県程度の範囲を1枚におさまるような縮尺（縮尺20万分の1）で表した地図である。明治時代から作成が行われ、現在は国土地理院が発行している。1923年と2012年の名古屋の地勢図を比較することで、約90年間で名古屋の都市が拡大していくことに伴って、交通や産業などにどのような影響を与えていったのか分かるものとなっている。地形の表現が地形図より詳しくないことにより、地勢図を活用することで人口-交通-産業の関連を考えやすくなる資料と考える。

Point（生徒が読み取る視点を中心に）

#### ★1 名古屋の都市市街地の拡大

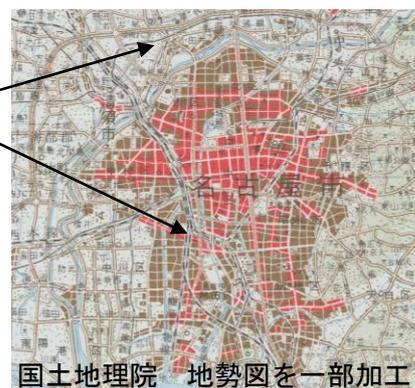
1923年と2012年の地勢図を比較すると、一番分かりやすい変化が市街地の拡大である。統計上では、名古屋市の人口は1923年で65万5200人、2012年で226万6851人となっている。地図上での、市街地の拡大を統計資料と関わらせて理解させていきたい。

(出典 「名古屋市HP」)

#### ★2 鉄道交通と道路交通の変化

(鉄道交通) 2012年時点でも、鉄道は概ね1923年の頃から大幅に変わっておらず名古屋を中心に各地に広がっている。しかし、拡大した市街地を覆うようにJR線や他の鉄道が拡大し名古屋周辺の鉄道交通網の利便性が上がっていることが分かる。

(道路交通) 1923年時点では、歴史的に自動車もあまり普及しておらず道路交通は鉄道に比べると発展していない。しかし、2012年になると、鉄道交通の外側を囲っていたり、中心部を東西南北に渡るように建設したりしていることが分かる。



### ★3 産業の発展

1923年と2012年の地勢図を比較すると、地図記号から都市部の外側に工場が増えていることが分かる。また、★3の湾口に着目すると、埋め立て地が増え、そこに工場が立地し、湾口が整備されていることが読み取れる。

整備されているだけでなく、自動車産業に代表されるよう産業の発展が日本の港湾別貿易額（財務省「貿易統計」）では、成田国際空港に次ぐ第2位となっており、15兆円を超えている。



#### 【用語について】

##### ・地勢図

自然的な地勢の分布を表現し、地勢だけでなく人工物も表現した都道府県程度の範囲を1枚におさめるような縮尺（縮尺20万分の1）で表した地図である。山地、河川、平野、海岸線といった地形、集落や町並、交通網などを概観できるようになっている。

##### ・地形図

5万分の1、2万5000分の1などの縮尺で表される地形を表した地図。土地の起伏・形態・水系などの自然及び人口物の平面位置と高さを測量した地図で、地形は等高線によって表れている。

（出典「図説 地図辞典」昭和59年）

#### 【利用の例】

中学校地理分野「世界から見た日本の姿」での実践を想定している。学習のねらいとしては例えば、「1923年から2012年にかけて、名古屋の都市部が拡大したことによって、交通や産業にどのような影響を地勢図から読み取ることができ、人口—交通—産業が関連していることが分かる」などが考えられる。

#### ○地形図の読み取りで学習した内容を活用し、地図から情報を読み取る

→地図上の記号から、どこに広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりでとらえる

例①市街地がどこに広がっているのか、②交通網がどのように広がっているのか、③工場がどこに建設されているのかなど

#### ○2つの地図を比較することで、どのような変化があったのかを読み取る

→1923年と2012年の地図を比べることで、どのような変化があったのかを読み取ることができる。

#### ○読み取った情報を整理し、人口—交通—産業の関連を考える

→2つの地図から読み取ったことから、それぞれを関連付ける

①【人口】名古屋の都市部が拡大し、人口も1923年から2012年にかけて拡大している。

②【交通】人口の拡大とともに、鉄道交通の中心部をつなぐルートが発展している。道路交通は鉄道交通よりも発展が見られ、都市部の外側を囲むように、発展している。

③【産業】図記号から都市部の外側に工場が増えていることが分かる。また湾口に着目すると、埋め立て地が増え、そこに工場が立地し、湾口が整備されている

※【歴史】【外国との関わり】など他の要因も関わっているが、今回は地図から読み取れる視点に絞って考えることとしている。

→①～③の関連を生徒自身が地図を示しながら、説明する。

#### ○具体的な写真があれば、同時に活用することで言葉、地図、写真からイメージをもたせる

【生徒の説明例】※今回、順序性は問わず、関連付けられているかを重視する

地図から分かるように名古屋周辺では、都市部が1923年から2012年にかけて拡大しています。それによって、人々が利便性を求めたり、交通網を拡大しても損失がないと考えたりすることから、交通網が周辺部に拡大していきました。また、人口が増えることで労働力があがり、交通網が発展していることから、名古屋周辺や名古屋港に見られるように工場などが建設され産業が発展していきました。

